

子育て応援メッセージ みんなで語ろう

長野県PTA新聞

発行
長野県PTA連合会
長野市旭町1098信濃教育会館内
TEL 026-233-1261
発行者/今井仁志
編集者/幸羽聡

ホームページ
http://www.pta-naganokenet
E-mail
office@pta-naganokenet

心のひろくひろきのために



子どもたちは、それぞれ成長の仕方や考え方に違いがあります。同じことをしても、皆が同じようにはいかないところが子育ての難しいところです。保護者の悩みは、家でしつけや子どもとの向き合い方など多岐にわたっています。また、学年が上がるにつれ学習や進路についての悩みも増えてくるようです。そして「うちの子はなんでいうことを聞かないのだろう」「こんな子育てでいいのかなあ」「なんだか私ばかりイライラしているみたい」と自分自身に納得がいかなくなることもあるでしょう。そんな時、ふとした会話の中で、肩の荷が軽くなり心の氷が解けていったことはありませんか。

井戸端会議のように他愛のない話をしていくとき、あるお母さんが「昨日宿題もやらないですつとゲームばかりやってたから、頭にきてつい昔のことまで掘り返してグチグチ言ってる、喧嘩になっちゃった」と話していました。周りの人たちは「そうそう、そんなことってあるよね」と相槌を打ちながら聞いていました。そして「自分に余裕がないと、感情的になっちゃったり計に言いすぎちゃったりするよね」と話したり「自分だけじゃないんだ、話したことでもよくあるよ」と話したりしていました。

また、改めて相談するまでもなく、普段の何気ないあいさつの中で「こんにちは、元気だった」と声をかけただけでも、話のきっかけになりそうです。ざっくばらんに話してみませんか。保護者懇談会や登校前、育成会やPTA活動等で顔を合わせたとき、道ばたで会ったときの雑談の中で、肩の力を抜いて声を掛け合うことが、互いの応援メッセージにつながるのではないでしょうか。

CONTENTS

県教委との教育懇談会 …… 2面
県教委と県PTA代表との教育懇談会が三つの分科会に分かれて行われました。

研究委員PTA実践報告 …… 3面
県PTAより委員を受け、PTAの実践報告を紹介しました。

単P訪問 …… 4面
北信・東信・中信・南信の小中学校から、独自のPTA活動を紹介します。

学校で頑張っているんだから、家でわがまま言うんだよ。家でまでお利口さんしたら子どもだって疲れちゃうよ。

親にどんなに甘えたいいいじゃない。いっぱい甘えさせてあげて。今だけのことだよ。

元気をもらったひと言

～子育てで悩んだ時、まわりからかけられて励まされた言葉を紹介します。～

やんちゃするのも反抗するのもその時期のその子がやるべきこと。成長するための仕事をするのね。そんなぐらいに思っただけでいいよ。

「他の子にはない」繊細なハートが絶対あるよ。長い目で大事に育ててあげて。

子どものつばやき



お母さんが来てくれると
うれしんだ
ちやんとでやえうたんだ

参観日に思う =保護者の声=

子どもたちの様子を見たいけれど、それだけでなく保護者の方のいろいろな話が聞けるのが楽しみ。
(小学校低学年保護者)

子どもたちの作品を見るのが楽しみ。学校でやっていることが分かるし、子どもたちの成長がみられていいよね。
(小学校高学年保護者)

参観日ってわくわくするの。自分の子どものころを思い出しながら、子どもたちが楽しく学校生活を送っている姿を見るのがいい。
(小学校高学年保護者)

父親も子どもたちに関わりたくいし、学校での子どもたちの様子も知っていたいと思う。夫婦で子どもたちのことを話しても、共通の話題になる。だから参観日は楽しみだ。
(中学生保護者)

息子と一緒にスノーボードに行った。初めての経験である息子は、インストラクターにしっかりと教えてもらおう方がよいと考えて教室に行かせた。日頃くっつき虫の息子が、なぜかやる気を見せ「いってきます」と出掛けて行った。教室が終わる息子は「僕少し滑れるようになったよ」と自信満々な顔で戻ってきた。

その後は二人でリフトに乗りゲレンデへ出た。しかし、二時間ほどの講習でそんなに滑れるわけではない。立っては転び、少し滑っては転びながら、息子は下までやっとなどり着いた。そしてリフトの終了時刻まで、滑っては転びを繰り返した。

今日の息子の姿を見て、私は今までにこんなに真剣に物事に打ち込んだことがあったのだろうか、と考えさせられた。何となく過ぎていく日々を少し反省し、息子を見習って一生懸命に取り組むということを考え直す一日になった気がする。

PTA憲章「親のゆびきりげんまん」には、子どものためだけではなく大人自身も成長させてくれる、共に育つという意味も込められているように思う。さまざまなPTA活動をを通して子どもと向き合う時間を少しでも多く持てるようにそのきっかけ作りをしていきたい。保護者自身も親として人として成長できる子育てを今後も大事にしていきたいと思う。(T・K)

大切なお子さまのための保険です PTA小・中学生総合補償制度

元気づきから心配…
そんな親心を支えます

ケガをした 通院1日目から補償
ケガをさせた 友達に大ケガをさせてしまった
病気で入院した 日帰り入院から補償 ※Hプランのみ

長野県PTA連合会が
平成10年より導入している制度です。

○24時間いつでもどこでも補償します。
○個別加入に比べて保険料は約43%割安です。(注)
○保険料は年間3,000円からのパターンをご用意しております。
(注)上記の割引率(約43%)は、この制度の被保険者数と保険会のお支払い状況によっては、今後変更となる場合があります。

4月1日補償開始の申込締切は3月25日です!
詳しくは学校で配布された黄封筒の中のパンフレットをご覧ください

補償日(消印有効)	
4月1日補償開始	3月25日
5月1日補償開始	4月25日
6月1日補償開始	5月25日

制度引受会社: 共栄火災海上保険株式会社 ○お問合せ: 小中学生総合補償制度担当係
電話: 026(234)2180



学校でそだてた大切なミニトマト 一つはパパのおべんとつに もうひとつはいもうとはんぶんこ

(日本PTA三行詩コンクール 小学生の部)

長野県教育委員会と長野県PTA連合会との教育懇談会 情報の共有を通し相互理解と課題解決に向けて

十一月二十二日、信濃教育会館において県教委から九名、県Pから三十四名が参加し、教育懇談会が開催された。第一分科会「不登校問題と今後の対応」第二分科会「部活動と学力・生活習慣について」第三分科会「中高一貫教育について」それぞれ意見交換が行われた。



今井会長はいさつで「情緒力の大切さを学び、感性とひらめきのある子どもを育てていきたい」と語った。

続いて県教委の山口利幸教育長は「時代が激変する今、知恵と汗を出し合い家庭・地域・学校の新しい関係を作り上げていくことが望まれる」と述べた。

第1分科会

不登校の現状と対応

長野県は、平成二十年度不登校児童生徒数、在籍比率が極めて深刻な状態であった。そこで、長野県不登校対策検討委員会により、今までの施策が効果的に機能しているかを見直し、市町村と連携し、各地域の課題に即した施策を行ってきた。相談体制としては、児童生徒や保護者の悩みや苦しみに寄り添う、スクールカウンセラーによる相談支援が行われている。また、スクールソーシャルワーカーが、子どもたちの課題の背景にある家庭や社会的要因も見て、子どもたちを取り巻く環境の改善を図っている。そのほかにも、不登校のサインに気づき、未然防止や早期対応を重点に



第2分科会

部活動について

少子化による学校の統廃合や部員不足により、部活動の種目を集団種目から個人種目に移行したり、廃部にしたり等、部活動の変更を余儀なくされている学校がある。また、集団スポーツにおいて、単独チームでの大会参加が難しい学校もある。小人数の学校でも充実したスポーツ活動が保障されるよう、現在、さまざまな試みが行なわれている。

その一つ目として、他校との合同部活動により大会出場を目指す方法がある。単独チームをつくることのできない学校が、他校と合同チームをつくり、大会への出場を目指すのである。二つ目として、学校の部活動にない種目を、他の生徒と一緒に地域のスポーツクラブとしてつくる方法である。中体連の大会には出場できないが、競技団体が主催する大会への出場を目指すのである。

第3分科会

中高一貫教育の必要性

文部科学省は中高一貫教育の必要性を、六年間一貫した教育課程を選択することで、中等教育の多様化を推進し、生徒の個性をより重視した教育の実現を目指すとして述べている。

長野県も「伸びる力を伸ばす学力の向上」「さまざまな分野でリーダーシップを発揮し社会のために貢献できる人材の育成」を目指している。また、県は独自の教育理念として「人の心の痛みをわかる豊かな人間性の涵養(かんよう)」を掲げている。受験にたけた人間を作るのではなく、学習活動・学校活動を通して、情緒を豊かにする教育を大事にしたい。



学力・生活習慣向上について

全国学力・学習状況調査の中に、基本的な生活習慣や学習に関する関心、意欲、地域へのかかわり等についての項目があった。本県の子どもたちは、基本的な生活習慣は比較的良好な結果が出ている。しかし、家庭学習の方法、内容、計画性に関わる項目については、少し課題があるようにみられた。子どもたちの生活が多様化している中で、家庭における学習習慣をきちんと身につけるといふことはなかなか難しくなっている。大人自身も、基本的な生活習慣を維持する努力をし、できるだけ子どもたちと一緒に食事を取り、学校のことを

話す等、子どもたちのことに関心を持つことが大事である。生活のために必要な習慣を身に付けさせることは、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図ることにつながる。今後も市町村や学校と連携し「早寝・早起き・朝ごはん」を習慣づけられるような啓発運動や、家庭教育に関する情報を提供していきたい。

周辺への影響と今後の計画

学力上位層の子どもが中高一貫校に集中することで、地元中学への影響を懸念する声もあるが、中高一貫校の通学範囲を広げるといふ形で、対策を進めていきたい。

また、今後の中高一貫校については、東北信・中南信のモデルケース二校の成果を検証した上で、第二期再編計画のあり方について検討していく方針を示した。

僕たち! 私たち! がつづけています!

MADE IN SHINSHU

信州の牛乳

長野県牛乳生産販売委員会
信州 JA 全農長野
長野県牛乳普及協会

もっと水と遊び、もっと水を感じ、もっと水を学ぼう！

木祖村立 木祖小学校PTA

木曾川の源流の里に建つ木祖小学校は、木曾川が織りなす豊かな自然に囲まれている。「水」への関心が高まっている近年、源流域で暮らしている私たちが改めて子どもたちと一緒に「水」の大切さを学び、恵まれた環境にすることを認識したいと考えた。生命の源である「水・川・森」を体験学習することにより、自然環境保全の大切さを理解するとともに、この活動を通して親子の絆を深めたいと願った。そこで「もっと水と遊び、もっと水を感じ、もっと水を学ぼう」をテーマに掲げ活動に取り組んだ。

第19次 実践報告

研究委嘱PTA

ふやそう会話！ ふやそう親子のふれあい！

小川村立 小川小学校PTA

小川小学校では「心も体もすこやかな子ども」を学校教育目標に掲げている。本校PTAとして「心身ともに健康で思いやりのある子どもの育成」を願い、家庭の果たす役割を考え支援していきたいと考えた。生活習慣についてのアンケート調査を行ったところ、本校の児童は「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣は身につけていることがわかった。しかし、支部懇談会や学級懇談会では、子どもたちの家庭での過ごし方において、テレビの視聴や食事の取り方など課題があることがわかってき

研究内容

一 夏休みに「会話をふやす試み」

夏休み前に全家庭に向けて、会話をふやすためのポイント集を配布した。その中から各家庭で実践してもらおうようお願いした。その結果「あいさつ」「食事」「レジャー」などの場面での取り組み

研究内容

一 「水に関するアンケート」を実施

地域の小中学校の保護者、児童生徒に「水に関するアンケート」調査を行った結果、本校の児童のほとんどの子どもが川で遊んだことがあると答えた。しかし、川や水への関心が大きい一方で「水」がどんな役割を果たしているのかわからない児童も9割にのぼった。

二 「子ども源流探検隊」の開催

「水」を知る体験としてPTA主催で「子ども源流探検隊」というイベ



タイヤチューブの川下り体験

「水」を知る体験としてPTA主催で「子ども源流探検隊」というイベ

が多く、親自身の生活や子どもへの接し方を見つめなおすよい機会となった。夏休みだけでなくこれから意識をして取り組んでいきたいという前向きな感想が多かった。

二 小中合同の「児童生徒の健康を考える会」

当日は、小中の保護者と教職員が参加のもと熱心な意見交換が行われた。

会話を増やすためのポイント

場面	具体例
1 あいさつ	保護者から積極的にあいさつする
2 食事	テレビのスイッチを切る
3 入浴	一緒にお風呂へ入る
4 共通の趣味	同じ本を読んだり、一緒にスポーツをしたりする
5 仕事・手伝い	一緒に食事の準備や作業等をする
6 レジャー	移動中の車の中ではラジオ・CDを消す
7 就寝前	布団に入ってから寝るまでの時間を一緒に過ごす

※保護者に呼びかけたポイントをさらに要約したものの

成果と課題

子どもたちのすこやかな成長のために、親子がふれあう時間をふやそうという保護者の意識がよ

心な意見交換が行なわれた。参加者からは「上の学年の保護者の正直な気持ちばかり参考になった」等の感想が聞かれた。



熱心な意見交換が行われた分代会



水中生物の観察・水質検査

成果と課題

子どもたちが「水」に関心を持ち自然の大切さを実感することができた。また、親子で一緒に活動することにより絆が深まっ

たように思う。やがて大人になったときにこの体験を懐かしく思い、きれいな川を守る意識を育むことにつながっていくことを願う。

「テレビはオフ」

家族の「はんで

「会話はオン」

(日本PTA三行詩コンクール 中学生の部)



第43回日本PTA関東ブロック研究大会

2011NAGANO

10月長野市で開催

大会スローガン

「信州につどいつらなる子育ての輪」

～心豊かでのびのびと育つために～

■開催期日 平成23年10月21日(金)～22日(土)

第1日目 10月21日(金) 分科会

第2日目 10月22日(土) 全体会

■大会会場 全体会 ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)

分科会 11分科会 ビックハット・長野市若里市民文化ホール、ホクト文化ホール、長野県社会福祉総合センター、メルパルクNAGANO

家庭が原点

家庭の中でしっかり子どもと向き合おう

平成23年度県P共通研究テーマ決まる

単位PTA訪問

北から、南から

No.70

地域と学校をつなぐPTA活動

雄大な北アルプスの麓、松川村の東端に位置する。校地内には校名にもある大きな松林があり、夏でも涼しさを感じることができる。そんな環境の中、318名の生徒たちは勉強や部活動、生徒会活動に力を注いでいる。



松川村 松川中学校

PTA作業

昭和二十三年にPTAが結成されて以来、生徒と同様に中学校を愛する保護者の思いが脈々と受け継がれている。現在も春は一、二年生の保護者を中心に早朝草刈り、秋には三年生の生徒と保護者が中心となり、中庭の池の清掃、校庭整備、校舎窓拭き等を先生方のご協力を頂きながら行っている。

校庭整備や中庭の池清掃は力仕事が多く、当日は大勢の父親がピカイパーやシャベルを携え積極的に楽しみながら作業に協力してくれている。また校庭を主として土曜参観日の

松川小中 PTA研究協議会
当村の一小学校一中学校という特徴を活かして、昭和三十六年より小学校と中学校が交互に当番校として研究会を企画し運営してきた。五十一回を数えた今年も、この当番であり、テーマを「人間関係づくり」と題した講演会を開催した。今回は初の試みとして土曜参観日の



子供たちの夢を育て

長野市の北東部、リンゴ畑に囲まれたのどかな地に、児童569名が通う学び舎がある。校舎の南には子どもたちの探究心を養う自然体験園が広がる、花咲き、鳥歌う、124年の伝統をもつ学校である。

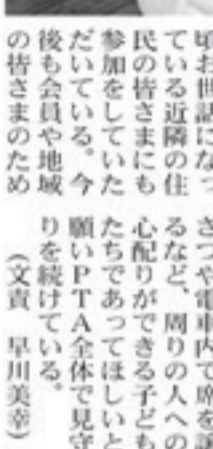


長野市 信大附属長野小学校

オリンピック選手を迎えて

教養部主催の文化教室では、バンクシーの五輪、銀メダリスの小平奈緒選手と、結城匡吾コーチに講演をしていただいた。一年生から六年生までの

全校児童と多くの会員が、現役アスリートとコーチの話に真剣に耳を傾けた。夢を持ち続ける毎日努力すること、周りの人に感謝することなど小平選手が大切にしていたことは子どもたちの心に響いたようだった。最後には全員が銀メダルに触らせてもらえ、というサプライズもあり充実したひとときとなった。



会員全員での登下校指導

全会員が参加するPTA活動として、登下校指導がある。児童が広範囲から通う本校では、校外指導員だけでは登下校指導が難しい。そこで、自分の子どもが通う通学路を全PTA会員が一年に一度は一緒に歩いたり、危険箇所の把握や乗車マナーの徹底に努めている。地域とのつながりを大切に考え、あいさつや電車内での席を譲るなど、周りの人への心配りができる子どもたちであってほしいと願うPTA全体で見守りを続けている。(文責 早川美幸)

この高台にいそめば 常にとうとし われらの母校

諏訪市の南東、神戸山の自然に囲まれた学校からは、全学区8地区を見渡すことができる。道沿いに史跡や神社仏閣の多い鎌倉・甲州西街道が近くを通る、歴史と自然に囲まれた学校で399名の児童が学ぶ。

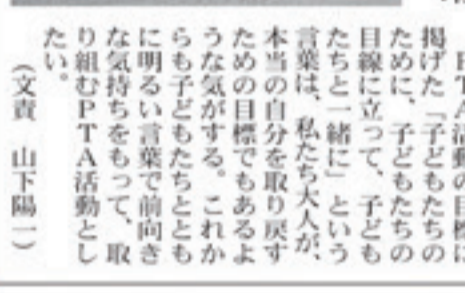


諏訪市 四賀小学校

親子キャンプ

PTA教育問題研究会が中心となり、夏に行っている親子キャンプ。子どもたちも保護者同士も、気心許し語り合える素晴らしい恒例行事である。当日の午後、会員がテントやパーベキューセットなどを校庭に持ち寄り、準備に取り掛かった。こういふ時は、お父さんの出番とばかりに、慣れない手つきではあるがテント設営を行ったり、子どもたちも、普段の父親とは違う姿を見て、自ずと手伝う心が生まれて、家族と自然が

一つになっていく瞬間であった。主催者側からは、綿あめ・かき氷・フルーツポンチが振る舞われ、イベント企画としてベトポトルドラコン大会が行われた。そして夜には、キャンプファイヤーと花火。これらを通して徐々に互いの心が打ち解けて、



本当の自分を取り戻すために
家族みんなが参加できるような企画によって、大人も童心に返り、日頃のストレスから解放されて、本当の自分に帰る時間が作られたように思う。

PTA活動の目標に掲げた「子どもたちのために、子どもたちの目線に立って、子どもたちと一緒に」という言葉は、私たち大人が、本当の自分を取り戻すための目標でもあるような気がする。これからも子どもたちとも、明るい言葉で前向きな気持ちをもって、取り組むPTA活動したい。(文責 山下陽一)

地域と共に育つ開かれた学び舎

「信州の鎌倉」塩田平の中央に位置し、古くは信州の学海と言われる学問の栄えたこの地に643名の生徒が学ぶ。4つの中学校が統合し50年、誰もが存在感・所属感をもてる学校づくりを目指している。



上田市 塩田中学校

しおだつ子応援団

地域全体で学校教育を支援する文部科学省の委託事業「学校支援地域本部事業」を受け「しおだつ子応援団」が立ち上げられた。学校・家庭・地域が一体となり子どもを育てる体制を整えながら、生徒に関わっていくことを目標に活動している。本校PTAとしても、この地域支援に協力し、環境施設部を中心に、地域環境ボランティアの方々や草刈り、花壇づくりの作業等を行っている。苗植えの作業では生徒会緑化委員会と保護者も引越した作業を手伝った。思い出の旧校舎か

新校舎完成
平成二十一年十二月に普通教室棟が完成した。教職員と一緒に子どもと保護者も引越した作業を手伝った。思い出の旧校舎から、明るく木の香のする新校舎へ初めて入り、教材を選んだ。これからの子どもたちの未来を考え、みんなで支え育てる気持ちを新たにしたい。(文責 玉木仁志)



める良い機会となつて、校内の環境・施設支援のため、年に一度PTAが開催している。PTAが生活雑貨を持ち寄り行う「塩田中学校親父の会」を充実させ、PTAの更なる充実を図っていききたい。(文責 玉木仁志)

編集後記

一月恒例の行事「どんどん焼き」私が子どもの頃、その仕事は地域の子どもたち全てに任されていた。当時、秋になると、河原に行くと柳の木の枝を鉋で切り落とし束にした。竹藪では倒れた数十本の竹を持ち主に運び出した。「どんどん焼き」前日、注連飾りを乾燥させた柳の枝の束や竹で囲み飾った。点火すると、竹のはじける音で「どんどん焼き」は盛大なものとなった。

その後、子どもたちの数が減り、地域では大人が一緒になって作っていたという。それでも盛大な「どんどん焼き」は引き継がれていたようだ。そして、今は、さらなる少子化とそれによる準備の大変さから、正月飾りのみを燃やす「どんどん焼き」へと変わらざるを得なくなつたようだ。凍える手での準備、何十本という竹のはじける音、夜十二時過ぎ、火を消した後の凍った河原の上で見上げた仲間との冬の空が懐かしく思い出される。(M・O)

小学3~6年生のみなさまへ

ちゅうでん小学生サイエンスクラブ

エレクト



会員募集!

見て、ふれて、体験して！
科学やエネルギーが楽しくなるよ！

お問い合わせ先
ちゅうでん小学生サイエンスクラブ「エレキッズ」事務局
☎052-201-7455(土・日・祝日を除く 9:30~17:30)

お申し込み方法
携帯電話の場合 <http://cep.jp/kids/>
ホームページの場合 <http://www.chuden.co.jp/kids/>